

# 第3回滑川市総合計画審議会及び 第3回滑川市ひと・まち・産業創生総合戦略策定委員会 議 事 概 要

日時：令和2年8月20日（木） 19：05～20：55  
場所：滑川市役所東別館3階大会議室

## 【委員】

役 職	氏 名	備 考
滑川市医師会 会長	伊 井 祥	
滑川商工会議所 会頭	今 家 英 明	
連合富山新川地域協議会滑川ブロック長	浦 島 成 友	
滑川市社会福祉協議会 会長	加 田 洋 一	
富山県新川土木センター 所長	加 藤 陽 一	代理出席 山田次長
アルプス農業協同組合 代表理事組合長	佐 伯 敏 隆	
滑川市自治会連合会 会長	澤 田 隆 之	副会長(副委員長)
市民公募委員	下 村 豪 徳	
滑川市民生委員児童委員協議会 会長	砂 子 良 治	
富山県中部厚生センター 所長	長 瀬 博 文	欠席
市民公募委員	鍋 谷 智 子	
富山県私立幼稚園・認定こども園協会 監事	蛭 川 徳 子	
滑川漁業協同組合代表理事組合長	萩 原 金 吉	代理出席 児島参与
滑川市連合婦人会 会長	原 洋 子	
滑川市体育協会 会長	八 橋 謙 二	欠席
富山県新川農林振興センター 所長	山 岸 和 重	欠席
滑川市小・中学校PTA連合会 会長	山 口 一 太 郎	
富山大学名誉教授	山 西 潤 一	会長(委員長)
滑川青年会議所 理事長	吉 森 真 人	
北陸銀行滑川支店 支店長	上 田 和 也	総合戦略策定委員
北日本新聞新川支社 支社長	魚 津 悟 司	総合戦略策定委員(欠席)

## 【幹事】

滑川市副市長	石 川 忠 志	
滑川市教育長	伊 東 眞	
滑川市総務部長	石 坂 稔	
滑川市産業民生部長	網 谷 卓 朗	
滑川市産業民生部理事	藤 田 博 明	
滑川市建設部長	岩 城 義 隆	
滑川市教育委員会事務局長	上 田 博 之	

## 【議題次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 第5次滑川市総合計画基本構想（素案）について
  - (2) 第5次滑川市総合計画前期基本計画の骨子について
- 4 閉 会

## 主な発言内容

□会長あいさつ

□新任委員紹介、資料確認等

会 長：それでは次第に沿って進める。まず(1)第5次滑川市総合計画基本構想（素案）について、事務局から説明されたい。

□事務局説明(1)-1（資料1 P10まで）

□説明事項の質疑応答

会 長：社会の潮流というのは日本全体の話だが、滑川市としてその中でも厳しい状況にあるものなどはあるのか。高齢化などは日本そのものの話だが、滑川は高齢化率については少し緩やかな状況といった感じか。

事務局：地方の自治体ではどこも同じような潮流かと思う。本市についても他の自治体同様少子高齢化が避けられない状況となっている。人口の減少としては、緩やかな減少で踏ん張っているという状況。本市では、富山市や魚津市など近隣市町村からの転入者が多いため、昔から滑川に住む人と新たに入ってきた人との間で、どのように地域コミュニティを築いていくかが今後の課題として挙げられると考えている。

会 長：SDGs に関しては富山市が取り組みを進めているが、滑川市では環境や他の分野で、こんなことをやっているというものはあるのか。

事務局：富山市のようにSDGsに特化して取り組むという表立ったものはないが、今後、基本計画・実施計画にSDGsを落とし込んでいく中で、連想しやすいものとしては、環境への取り組みがあるが、そういったものを重点的に取り組んでいくという方向性を今後示していくことになる。また、環境に限らず、教育でも誰一人取り残さないということや、豊かな生活を築くということで生活に困窮する方への支援など、SDGsは市全体の取り組みに関係しており、今後、基本計画の中でSDGsのどのターゲットに当てはまる施策かということを示していきたいと考えている。

会 長：グローバル化の進展という点では、滑川ではものづくりの企業がたくさんあるが、諸外国からの研修生など学びに来ている方は、こういった国から増えているといったデータはあるのか。

事務局：現在、外国人については450人程度いるが、多くは技能実習という形で来ている。ここ2、3年で急激に増えているが、そういった方も同じ地域で生活する

ということで、どのような市政へのニーズがあり、生活の支援をしていくかということが今後 10 年間の課題であると考えている。

**会 長**：滑川に来ていた方が自国に戻って活躍する中で、滑川との交流を築いていくということはあるのか。

**事務局**：本市では、市内に住む外国人との交流については、市民サークルの活動が活発だった時期もあったが、最近は市民活動としては下火になっている。当市はアメリカのシャンバーグ市が姉妹都市ということで交流を続けているが、それ以外の側面からの国際交流をしていくことも大切だと考えている。

**会 長**：それでは続けて事務局から説明されたい。

□事務局説明(1)-1(資料1 P11から)※政策部分(P12から)は資料(資料2)に基づき説明

□説明事項の質疑応答

**委 員**：スマート自治体やスマート農業といった取組みが出てきたが、どういう意味で「スマート」という言葉を使っているのか。

**事務局**：先端技術を活用した効率化について、国では概念として「スマート」という言葉を使用している。スマート農業であれば、先端技術を活用した機械を導入し、作業の効率化を図ることで労力の省力化を図るというもの。スマート自治体は、市役所の事務について ICT を活用し省力化を図るとともに、行政サービスの向上を図るという概念として「スマート」という言葉が用いられている。

**委 員**：各自治体で個別にシステムを導入すると互換性がなく、国で一貫したシステムを導入する必要性もあるのではないかと考えられるが、そういった面はどうなのか。

**会 長**：スマートというのは IT だけではなく、いろんな概念があるが、これからの社会は IT を賢く使って、暮らし・経済・社会などをうまく回していこうというもの。データの互換性については、どこであろうが、これからは互換性のある時代になっていく。今回コロナの対応では、縦割り行政により、色んな機関の横軸が繋がらないため齟齬が生じた面もあった。ただ、これからは互換はとれるようになると思われる。

**委 員**：安全・安心と環境問題は、とても大きな問題だと思う。住みよさランキング 15 位というのものもあるが、水・空気・緑は非常に大事だと思う。また、高齢化で一人暮らし、そしてやがては空き家になるという問題もあるが、そういった問題に対して具体的な構想はあるのか。

**事務局**：高齢化が進んで地域でどのように暮らしていくかという問題だが、資料 2 の基本計画で言えば「8 長寿社会への対応」に当たるが、「介護予防や生活支援体制を身近な町内単位で整えることで、いくつになっても住み続けられる地域づくりを目指す。」としている。高齢者の部分では地域包括ケアシステムということで、医療・介護を地域で包括的に支え合うという体制づくりを進めているところだと思う。地域包括ケア自体は、元々医療や介護の話だが、国ではそれ以外、例えば子どもの見守りなどあらゆる面で、地域で活動する団体と行政が相

互に協力し合って、地域に住む方の暮らしを支えていくということが、一つの方向性として示されている。また、少子高齢社会で地域の担い手が減少していく中で、地域の問題を一番認識している地域の皆さんが、高齢福祉に限らず子ども施策などあらゆる分野で地域の支え合いを強化していくことが、今後10年間の課題だと考えている。

会 長：それでは続けて事務局から説明されたい。

□事務局説明(2)-1(資料2 施策1~12)

<質疑なし>

会 長：それでは続けて「まちが元気」の施策について事務局から説明されたい。

□事務局説明(2)-2(資料2 施策13~22)

<質疑なし>

会 長：それでは続けて「産業が元気」の施策について事務局から説明されたい。

□事務局説明(2)-3(資料2 施策23~30)

□説明事項の質疑応答

会 長：観光のところで、台湾をはじめとしたインバウンド事業とあるが、これまで何か実績があるのか。

事務局：昨年、「台湾美食展」に出展し滑川市をPRした。その際、滑川市の観光資源であるホタルイカを販売したところ、大変好評であり、現在はコロナの状況下ではあるが、今後5年間を見据えると、台湾を含めた外国の観光客に対する取り組みが必要ということで挙げている。

委 員：農林業について、園芸作物のブランド化を推進していくとあるが、これは現在栽培しているものの拡大なのか。それとも新規に新しい作物をつくっていくものなのか。また、スマート農業の推進に際し、環境情報の取得が重要だが、通信ネットワークの課題があり、現在、様々な基地局に集約して安価なサービスが広がってきてはいるが、個々の農業法人やJAで整備すると分散していくので、自治体として基地局を所有し、それをインフラとして使用できるような戦略は考えているのか。

事務局：1点目だが、現在深層水を活用した作物として深層水トマト、深層水りんごのブランド化を進めている。今後、深層水を使った新たな作物やそれ以外のブランド化も考えられるが、今のところ具体的なものはない。

事務局：富山市では行政でネットワーク基盤を整備し、様々な実証実験をしているが、本市では、自治体所有のネットワーク基盤は、現在のところ計画にはない。ただ、スマート農業など様々な分野で通信技術の活用を進めていく際に課題となるが、現在、Net3が新たな幹線路の整備を進めていくところなので、そういう中で考えていく必要があると思われる。

会 長：意見も出尽くしたようなので、進行を事務局にお返しする。

□今後のスケジュールについて説明(資料3)

事務局：本日はこれにて閉会する。委員の皆様、ありがとうございました。